

私が思う未来の備前市

備前緑陽高校 二年 藪井 明優花

私は備前市外から緑陽高校に通学しています。

緑陽高校に入学して総合的な探究の時間の中で備前市について詳しく学ぶ機会がありました。

学んで思った事は、深刻な過疎化が進んでいて平成二十年には人口四万人だったのに対し、令和二年では三万人に減少しています。少子高齢化問題が深刻化してきています。市としても若者の転出を防ぐ為に子供医療費等、さまざまな助成や支援を行って下さっていますが、人口減少に歯止めが効いていないのが現実です。まず若い世代が百年後も住み続けたいと思う、魅力あふれる備前市に変わる事が大切だと思います。

備前市は、自然の恩恵をとんでも受けていて素晴らしい田園風景の残る八塔寺や、穏やかな瀬戸内海がひろがる日生、三百年の歴史をほこる閑谷学校、日本遺産に認定されている六古窯の一つでもある備前焼と、観光名所が多く存在する、これらは古き良き日本の伝統として、きちんと守り後世に伝えていくべきものであると思います。しかし範囲が広く、一つ一つが点在している

為特に若者の全国的知名度がまだまだ低いのではと思います。

そこで私は日生を全国区の観光名所にして備前市の活性化を図りたいと考えます。なぜ日生かというところは一年を通して観光客を呼ぶことができると思うからです。春は鯉祭り、夏は海水浴に、まほろば自然体験や花火、秋は釣りやカヌーやカヤック体験、冬はB級グルメの代表かきオコにかき、みかん狩りや消防の出初め式、そして年間を通して小豆島行きフェリーが出ていますし兵庫県との県境に立地している為県外の観光客を呼び込みやすく、日生に観光リゾートホテルを建設して全国的な観光地となれば多くの人が働けるようになります。そこで働く人が片上や吉永、三石、伊部等に住んでくだされば人口減少に歯止めが効くのではと考えます。

人口が増えれば、電車やバスの需要も増え交通の便も改善すると思います。大型スーパーや大型ごらく施設、DVD、CDのレンタルの店舗等の誘致も可能となり、飲食店の増加備前市内だけで全ての事がまかなえる便利さを売りにすれば近隣に住む人達がわざわざ備前市の店に買い物に行こうと思って下さる様になり定住に結びつき現

在空き家となっている家を売り出したり、古民家風店舗として利用したりして、若者や子育て世代の定住率が増加すれば自然に活気溢れる備前市に生まれかわると思います。

私が思う未来の備前市は老若男女のバランスも良く活気に溢れ、皆が備前市を心から愛し備前市に住む人がやっぱりここはいいなとずっと住み続けていこうと思う備前市の姿です。



No one can make you be considerate; it is your decision.

旧閑谷学校創学350年記念「るんこカルタ」より